

讀んで下さい

▲本誌發行の由來は、卷首に陳べたほか、猶一つの理由があります。

▲それは私の著書『水彩畫の彙』も、後の『水彩畫階梯』も、唯その道に入るべき手引として書いた迄で、それ以上の事は學ぶ方々の研究に任して置きました。

▲然るに偶々、此書によつて學べる人々のやり方を見ますと、或る人々は、私が書中に吳々斷つてあるに拘げらず、寫生すべき物の色をそつち除けにして、私の着色法を紙の上に並べて居られ、また或る人は、みず／＼不利益な方式をとられ、何れも進歩してゆくべき路を踏外してゐらるゝ方々が多い様であります。

▲このやうな有様を見ますと、私は諸君を門に入るべく手引した許りては氣が濟みません、不親切のやうにも思はれてなりません、今少し立入つて熱心な人々の御相談相手になり、共に／＼此道を樂しみたく思つた故であります。

▲本誌は二三友人の助力を得て漸く發行の運びになりましたが、御覽の通り粗末なも

のです。併し何れも本業の餘暇の仕事で、多くの時間をこれにかける譯にはゆかず、經驗もなし、不行届とは知りながらも、初號はこれで精一ぱいの出來て、この上は力が及びませんでした。是から追々讀者の注意を受けて、能ふだけ内容も外觀もよく致してゆくつもりです。

▲次號からは水彩畫に關した新刊圖書の批評をかきます。初學の方に御勧めしよゐもので、割合に世間に知れておないものもあり、また害のみあつて寸毫の益もない畫手本の類が、誇大の廣告をして人を欺いてゐるものもあります。かゝるものは水彩畫發達の上に少なからぬ影響を及ぼしますから、勉めて公平に批評して、善いものを推薦し、不良のものを出版界から黜けたく思ひます。

▲口繪の水彩風景畫は、英國のロバート・リットル氏の筆であります。穩やかなる畫風のうちに、筆力の剛健なるを見るべく、華やかなる色調はなくも、見飽のせぬ永久の生命が含まれてゐます。

▲口繪の製版は、その術に於て屈指の金子

政次郎氏の手になり、秀逸舎第一工場で印刷しました。色の調和の複雑な西洋畫の製版は、凡手のよくする處ではありません。

殊に此繪の如きは少なからぬ苦心を致されたそうです。爾來本誌は、口繪に於ても他に眞似の出來ぬ程のよい物を、追々紹介致したい考であります。

▲鯨船の圖は、本年春期、米國費府のアイトクラブに開かれた水彩畫展覽會に出たもので、取材の奇抜なる、筆路の大膽なる、唯々敬服のほかありません。このやうな活た繪は、我國の展覽會では、容易に見ることが出來ぬやうに思はれます。

▲本誌の表紙は、四谷大番町なる尙山堂水野氏の好意によつて、雜誌としては他に類のない高尚なものを得ました。次項の繪葉書挾も、同じ工場で作つたものです。

▲本誌發送の途中、口繪の傷まぬやうにと帶封に厚紙を添えて置きました。この厚紙の中央にある八つの白點へ穴をあけ、リボンなり絹糸なり通して、裏で結ばれるときは、美しい繪葉書挾となります。この厚紙の添えてありますのは、本會からの直接購

讀者に限りませす。

▲『水彩畫の葉』は、説明の不充分な點が多く、猶書加へたい處がありました故、昨年の春第十五版限り絶版して、更に内外出版協會から『水彩畫階梯』を發行しました。然るに、近頃元の出版者の新聲社でなくて、何處よりか『水彩畫の葉』第十八版といふのを出してゐます。そして著者に一言の斷りもなく、書物の體裁を變へ、口繪には著者筆としてありながら、全く私の知らぬものさへ挿んであります。私は元より水彩畫の普及を冀ふほか他意はありませぬ故、本文さへ間違つてゐなければ、發賣を差止やうとも思ひませぬが、所謂十八版の書を通讀して見なければ解りません。何れに致せ、私は『水彩畫の葉』第十五版以後のものには、一切責任を持たぬと申とを、爰にお斷りして置ます。

* * * * *

本誌の編輯上其他に對して御意見ある方々は、遠慮なく御注意を給はりたく、編者は出來得る限り御希望に副ひ、本誌の進歩を圖るべく候。

近事雜聞

會告

■繪葉書品評會 日本葉書會の催にかゝる繪葉書品評會は、前月第一土曜日午後より、麴町なる巖谷夾日氏の宅に開かれ、主人及小波、南岳、米齊、汀鷺諸氏參會、近刊繪葉書數種に合評を試み、後各自合作の席上繪葉書を交換し、夜に入て散會したりといふ。

■俳諧繪葉書夏の部 日本葉書會發行の俳諧繪葉書は齋藤松洲氏の筆にて既刊春の部極めて好評なりしが不日出版さるべき夏の部は更に清楚にして氣品高きものなりといふ。

■春鳥會繪葉書 本會繪葉書競技會に出てし一年間の傑作を抜きしものにして、第一輯には左の人々の作あり
お福さん 鶴澤四丁 藤むすめ 巖谷夾日
花見ふね 瀧島寛水 ひかり 川俣自輔
白百合 山田全一 京人形 小林珠郎
次輯は水彩風景畫のみにして、八月初旬出版さるべく、發行所は日本橋區通二丁目松聲堂なり

■廣告繪葉書 松聲堂の廣告繪葉書は、本會の新案で特別廣告に限れり、此繪葉書を添へて註文する時は總て二割引にて發送すといふ、詳しくは廣告を見られたし

■學校又は同志の間に、寫生會、エハガキ會等の設けあるものは、其景況をなるべく詳しく通報せられたし

■前項團體及び個人の作品の現物、若しくは寫眞を寄贈せらるれば、優秀なるもの限り、寫眞版に付て、本誌に登載すべし
左の事項につき廣く投書を求む

□水彩畫に志せし最初の動機
□始めて戶外寫生を試みし時の感
□寫生中に起りし興味ある出來事
□畫を學びたる爲めに得たる顯著なる利益

■以上切の期を定めず、半紙十行二十字詰にて、簡單に、字體明瞭に認められたし
■投稿の返戻を望まるゝ方は、相當の郵券を添へられたし

■水彩畫に關する質問にして、一般讀者に有益と認むるものは、答へを紙上に掲載すべし、但初めより返信封を添へらしものは直ちに答書を送るべし

■眞野紀太郎氏は、遠近法に關する質問に答へらるべし。
但複雑なるもの、圖説を要するものは此限りにあらず